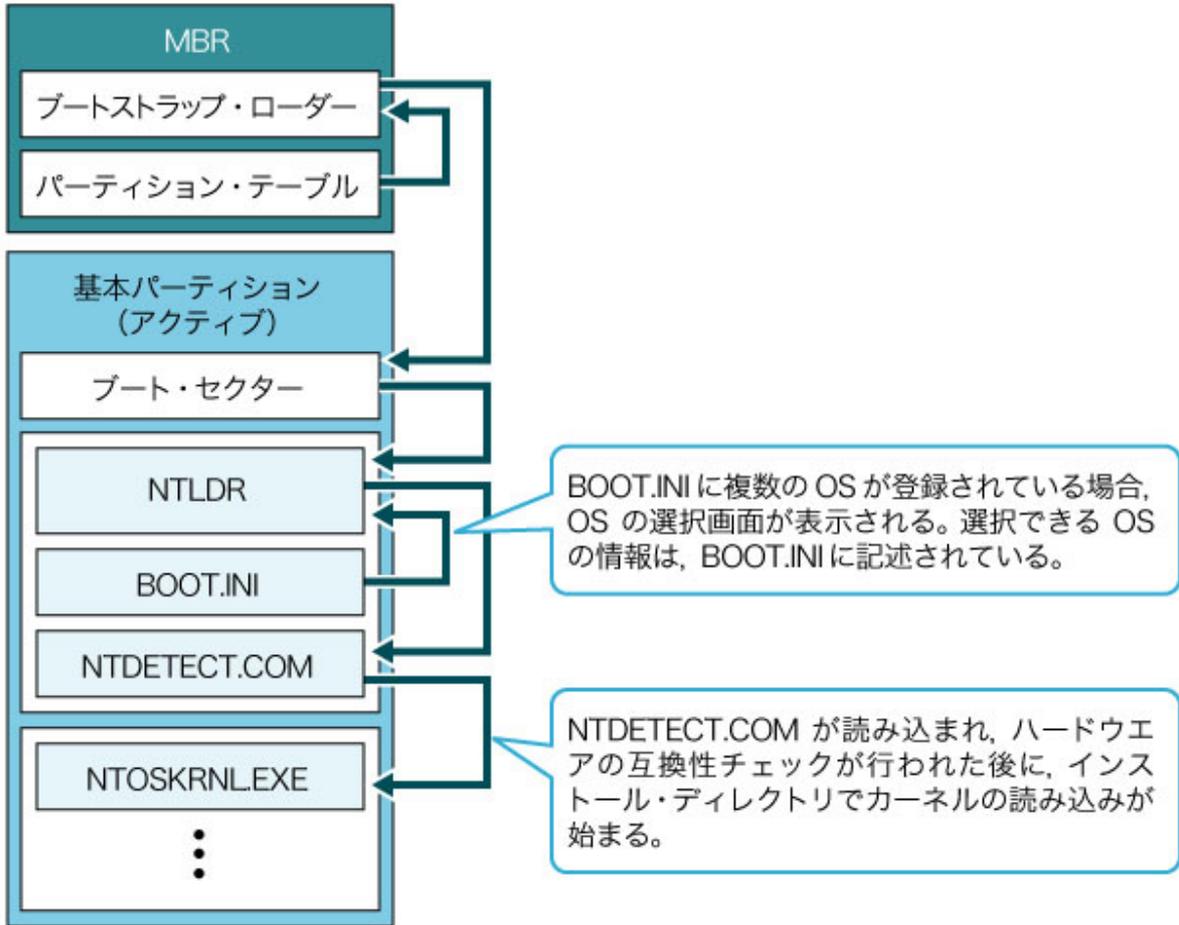
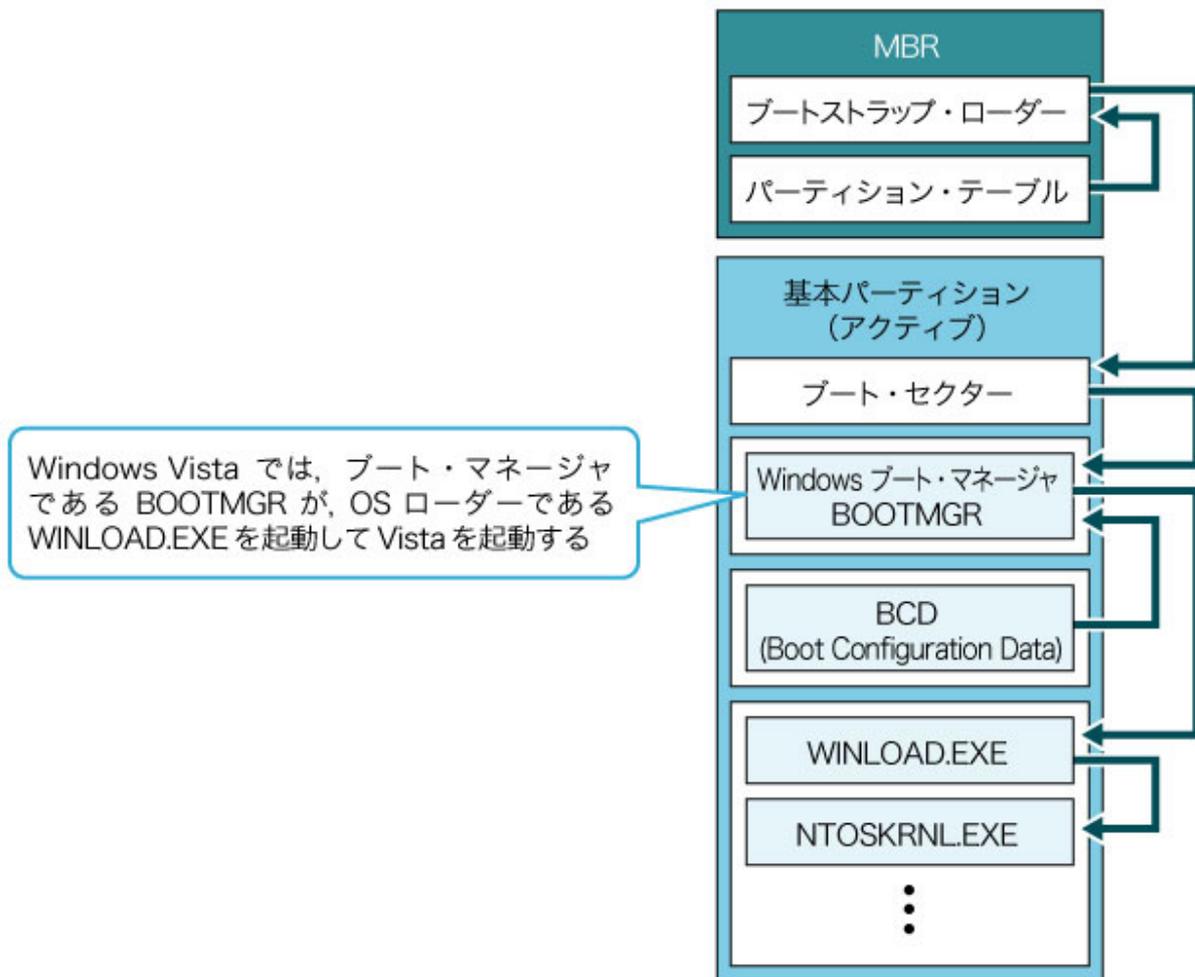


仕組み

XP



Vista



BOOTMGR

```
d:¥boot¥bootsect.exe -nt60 all
```

ここで指定している「BOOTSECT.EXE」というファイルが、Vista用のMBR修復プログラムである。このプログラムを、例で示したように「-nt60」というオプションを指定しながら実行すると、BOOTMGRをマスター・ブートのIPLとする形にMBRが動作するように変更される。ちなみに、このオプションを「-nt52」にすると、逆にWindows XPのNTLDRをマスター・ブートの形に変更される。もしWindows Vistaを完全に削除したいような場合は、このコマンドでMBRの呼び出し先をNTLDRに戻して、VistaのパーティションとCドライブのbootフォルダを削除すればよい。

BCDEDITでBCDにWindows XP用のエントリを作成するコマンドは以下のようになる。

```
c:¥windows¥system32¥bcdedit -create {ntldr} -d "Windows XP Professional"
```

これは、CドライブがWindows Vistaのパーティションで、システム・フォルダが\windows\system32という場合のコマンドである。もし異なっている環境の場合は、自分の環境に合わせて変えてほしい。この中にある「{ntldr}」がエントリの識別子で、通常は{ntldr}を指定する。すでにそのエントリがあると、

指定された作成操作を実行中にエラーが発生しました。
指定されたエントリは既に存在します。

という表示が出るが問題はない。

なお、「-d」オプションの後ろにある「"Windows XP Professional"」というダブル・クォーテーション(")で囲まれた文字列は、起動時の選択メニューに表示される選択文字列である。実行時にエラーとなった場合は適用されない。XPにVistaを追加インストールした場合には起動時の選択メニューに「以前のバージョンのWindows」と表示される。この表示がイヤなら、以下のようにオプションを変えてコマンドを実行すれば、エラーとならずにメニューに表示される選択文字列を変更できる。

```
c:¥windows¥system32¥bcdedit -set {ntldr} description "Windows XP Professional"
```

続いてNTLDRのエントリに、Windows XPを起動のための情報をセットしていく。まず、以下のコマンドを入力する。

```
c:¥windows¥system32¥bcdedit -set {ntldr} device partition=c:
```

{ntldr}は情報を追加するエントリで、先ほど指定したエントリ識別子を指定している。末尾の「device partition=c:」の「c:」でIPLのNTLDRが存在するドライブを指定しており、通常はCドライブになる。

続いて、NTLDRが存在するパスの指定についての情報を追加する。NTLDRは通常ルート・フォルダにあるので「\ntldr」とする。

```
c:¥windows¥system32¥bcdedit -set {ntldr} path ¥ntldr
```

最後に、以下のようにNTLDRのエントリを起動メニューに追加するコマンドを実行する。

```
c:¥windows¥system32¥bcdedit -displayorder {ntldr} -addlast
```